

## 滋賀短期大学創立50周年記念講演会＆トークショーへのご挨拶

本日は滋賀短期大学創立50周年記念の講演会及びトークショーにお越しいただきまことにありがとうございます。

三日月滋賀県知事の代理としてご出席いただいている磯谷総合企画部管理監、滋賀県立大学の広川理事長・学長先生、京都西山短期大学の加藤学長先生をはじめ、多数のご来賓の方々には、ご多忙にもかかわらずご出席賜り、あつく御礼申し上げます。

さて滋賀短期大学は、昭和45年(1970)、滋賀女子短期大学として発足してから50年を迎えることになりました。本来ですと、2年前、令和2年(2020)に創立50周年を迎え、記念事業を実施する予定でおりましたが、コロナ禍のために延期を続け、今日に至りました。

ただ本学では、本年4月に第4の学科としてデジタルライフビジネス学科を立ち上げましたので、本学が実現しようとしている新しい教育研究内容を、社会にご理解いただきためにも、ここで記念事業を実施できたのは、よい機会をいただいたと思っております。

さて発足した当時の滋賀女子短期大学は服飾学科50名、幼稚教育学科50名、あわせて100名の入学定員でスタートしました。初年度は2学科あわせて入学生74名でしたが。翌年は109名、5年後には幼稚教育学科235名、服飾学科も96名という入学定員を大幅に上回る入学生があり、昭和51年度から幼稚教育学科の入学定員を120名、服飾学科も80名と大幅に増員しました。

その後は昭和62年(1987)より秘書科を入学定員100名で新設し、服飾学科も平成3年(1991)に生活学科に名称を改め、秘書科も平成14年(2002)からビジネスコミュニケーション学科と改めています。また平成15年(2003)から幼稚教育学科は幼稚教育保育学科としました。入学定員は時代の変化に応じて変更してきましたが、最も多い時には幼稚教育保育学科の定員を170名とした時もありました。そして平成20年(2008)に附属高等学校と併せて男女共学にするために、滋賀女子短期大学を滋賀短期大学とし、今日に至るわけあります。

もともと純美禮学園の創設者中野富美先生は、大正7年(1918)に松村裁縫速進教授所を大津に開かれたときから、一貫してしっかりとした専門性をもった女子の職業人教育をめざしてこられました。戦後の新しい学制が施行されてからは、当時の大津高等女子実業学校を大津家庭高等学校とし、さらに滋賀女子高等学校と改めましたが、同時に短期大学の設置を熱望されていました。残念ながら中野富美先生の生前には実現しませんでしたが、先生の意図を汲んで、地域に根差し高い専門性をもった職業人を養成する高等教育という理念は、本短期大学に受け継がれています。

そして創設以来50年を経過し、昨年度までの卒業生の総数は1万5760名にのぼります。卒業生はそれぞれの専門性を生かし、さまざまな分野で活躍しています。生活学科、幼児教育保育学科、ビジネスコミュニケーション学科の3学科では、これまでの伝統を踏まえ社会を基礎的なところで支える人材を育ててまいりましたが、このような伝統に加え新しい社会、とくにデジタル技術の進歩に対応した人材の育成を進めるために、この4月からデジタルライフビジネス学科を立ち上げました。本学では新学科だけではなく従来の学科も、デジタル社会に対応する教育内容を実現していこうと思っています。

50年と申しますと半世紀であります。純美禮学園はさる令和元年(2019)に100周年を迎えておりますが、短期大学もその半分を共有していることになります。今私たちが背負っている課題は、これから50年、100年に向けて、どのようなビジョンをもった学校をつくっていくかであります。とくに現在は短期大学という形の高等教育は曲がり角に来ているといわれます。そのような流れの中において、本学が短期大学の特性を生かし、伝統の力と創造力をもったブランドを掲げ、現代の地域社会がもとめる有用な人材育成を続けていくために、この50周年という節目を好機としてとらえたいと思います。

本日はそのような意図のもとに、織作峰子先生とコシノヒロコ先生においでいただき、次の50年への出発点を飾りたいと思います。よろしくご清聴ください。

令和4年11月6日  
於ピアザ淡海  
学長 秋山元秀